

# 農作物生育・技術情報9号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JA平取町 JA門別 JAとみかわ

## 1 水稻生育状況 中苗：ななつぼし

9月上旬から収穫が始まっています。降雨や風による倒伏が一部で見られますので、品質を落とさないように作業〔刈り取り・乾燥・調製〕を計画的にすすめましょう。

生育状況(9/15現在)			〈技術対策〉
項目	26年	平年	
成熟期	9月15日	9月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨で水が停滞している場合、速やかに排水を行い、土壌表面を乾燥させる。</li> <li>・収穫～乾燥～いもち病等、発生田の稲わら処理～収穫後の水田管理。</li> </ul>
生育の遅速	+3	-	

### ○収穫作業について

湿田での刈り取り作業では、水田を痛めないように急旋回は避ける。

また倒伏した稲は追い刈りでコンバインの速度を落とし丁寧に刈る。

### ○乾燥・調製について

籾水分が多く外気温が高い場合、ヤケ米の発生が多くなるので、通風乾燥を行い、徐々に熱風温度を上げ、二段乾燥で玄米水分が14.5～15%になるよに仕上げる。

胴割れは、籾の乾燥速度や外気条件によって発生が異なるので、晴天時など空気が乾燥している日は、急激な乾燥は避け熱風温度を下げてゆっくり乾燥させる。

### ○いもち病が発生した水田の稲わら(もみ殻含む)の処理について

水田から感染した稲わらを搬出し、本田や育苗ハウスから離れた場所に堆積して腐熟化させる。乾燥した稲わらの病原菌は死滅しないので、本田や育苗ハウス周辺への放置は絶対に行わない。やむを得ず稲わらを搬出できない場合は、稲わら全体が濡れるように水田の地表に広げたり、土中に混ぜ込むなど腐熟の促進に努める。

### ○収穫後の透排水性改善、稲わら処理について

走行軌跡に水がたまる場合は、溝きりなど排水対策を行い、水田の乾燥に努める。

秋起こしは水田の乾燥状態を確認してから行う。

また土壌診断を行い、地力窒素が残っている場合は稲わらを排出する。

## 2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト 桃太郎 桃太郎8 桃太郎ギガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月定植はおおむね収穫終了。</li> <li>・5月定植で7～8段収穫中。</li> <li>・6月定植で6段以降収穫中</li> <li>・葉かび病・灰色かび病の発生・アザミウマ類の食害痕が果実に見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育状況やほ場の水分(乾燥)状態を見ながらかん水を実施する。</li> <li>・摘葉等を行い通気性を改善し、病害の発生を防止する。</li> <li>・疫病の発生に注意し、ランマンフロアブル等で防除を行う。</li> </ul>
ハウス軟白ねぎ 杓イトイト等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アザミウマ類、タネキバエ類による食害が見られる。</li> <li>・葉枯病による黄色斑紋症状が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黄色斑紋症状はアザミウマ類の食害に似ているので注意する。</li> <li>・葉先枯れが発生した時点で農薬散布を行う。</li> </ul>

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎) スパーウェルカム	・斑点病、灰色かび病の発生が見られる。	・夏芽収穫終了後は自然に枯れ上げるようハウスを開放し外気にあて養分転流を促す。 ・かん水は11月頃まで行う。
きゅうり ちなつ オーシャン	・生育はほぼ順調で、子づるの果実肥大が進んでいる。 ・うどんこ病・べと病の発生やウリノメイガの食害が一部のほ場で見られる。	・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ・ウリノメイガの発生初期を把握しながらカスケード乳剤、アフーム乳剤等で防除する。

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。

この抵抗性は抵抗性の強いタイプIVです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 3 畜産

#### ●サイレージ用とうもろこし生育状況 (9月15日現在)

生育期節は、「糊熟」で進度率は100%です。

本年は登熟の進みが平年より早く、収穫適期が早まっています。

黄熟期の平年値(進度率75%)は9月27日ですが、既に「黄熟期」に達している地域もあるようです。子実の状態を確認し、刈り遅れないようにしましょう。

生育期節	遅速日数
糊熟 進度率100% (100日タイプ)	+3

### 4 畑作

#### ●小豆

収穫時期は、熟莢が100%(完熟期)に達し、子実水分が16~20%になった頃です。通常年は、完熟期後、約1~2週間以内が目安となります。

茎水分が高くても子実水分を優先し、収穫時期の目安に達していれば収穫しましょう。

#### ●秋まき小麦

雑草対策は秋処理が基本となります。イネ科雑草と越冬雑草を除草するにはこの時期が適期です。

表 秋まき小麦除草剤使用例

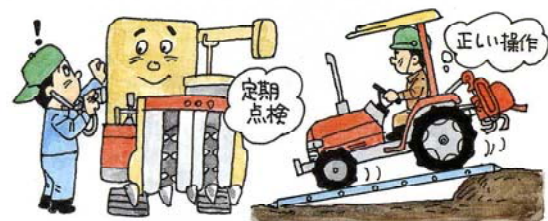
薬剤名	使用時期	10a当たり使用量	注意事項
ガレス乳剤	は種後~出芽前 小麦の1~3葉期	200ml 100~150ml	砂土では小麦の葉身が白化する場合がある。
ゴーゴーサン 乳剤30	は種後~ 小麦の2葉期	300~400ml	多雨時に使用しない。ツクサや科雑草に効果が劣る。

### 5 9~10月は秋の農作業安全運動期間です!

秋の繁忙期は収穫等の農作業が増えると共に、日没が早まり、作業中の事故が発生しやすくなります。

<農作業安全の実践・確認項目>

- 休憩の取れる無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジン停止
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は、路肩の状況を確認



事故のない収穫の秋を迎えましょう!